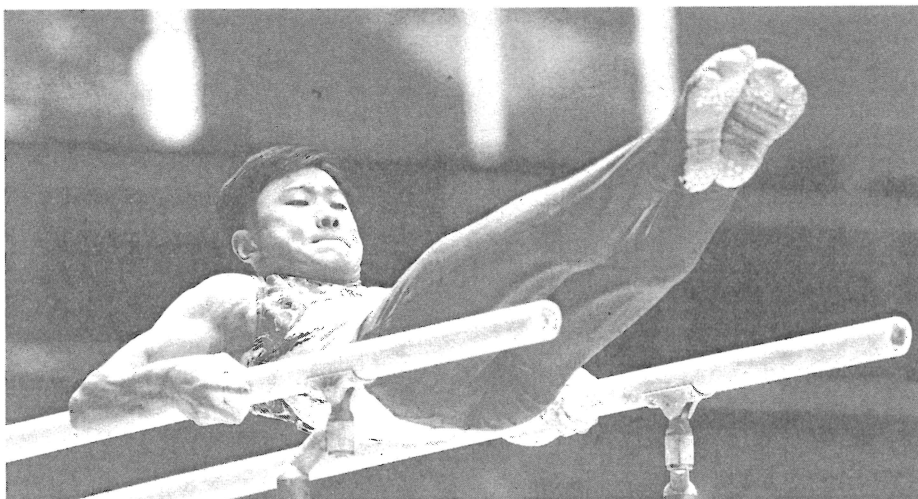


# アスリートファイル ……

体操男子

清風高2年 北園丈琉

平行棒で演技する北園丈琉。2019年11月、高崎アリーナ



内村2世 代表入りへ「完璧な演技」

体操ニッポン男子の輝かしい五輪の歴史で、高校生代表は「清風コンビ」として1988年ソウル五輪で団体総合銅メダルに貢献した池谷幸雄、西川大輔のわずか2人だけ。その狭き門を東京五輪で目指すのが同じ大阪・清風高で2年の北園丈琉だ。2018年ユース五輪で5冠に輝いたホープは「必ず東京五輪代表の座をつかみ取る」と闘志をたぎらせる。

身長154㎝と小柄ながら体脂肪率約3%の筋肉質の体を武器に、つり輪や平行棒を得意とする。全6種目で大きな弱点がなく、昨夏の全国高校総体では1学年上で世界選手権代表の橋本大輝（千葉・市船橋高）を破った。足先まで意識の行き届いた美しい体操は五輪個人総合2連覇中の内村航平（リンカーン）になぞらえ「内村2世」

とも称される。

東京五輪開催が決まった10歳のときから「高校3年で挑む東京で団体総合、個人総合で金メダルを獲得する」と公言。先輩である池谷さんからも「自分もソウル五輪に出ると周りに言っただけ、絶対に五輪に行かないといけないう空気をつくり出していた」と当時の心境を聞き、成長痛に苦しんだ清風時代も目標を変えずに技を磨いた。

トップ選手がそろった昨年11月の個人総合スーパーファイナルでは6位。巻き返しを期す内村や白井健三（日本大大学院）らもおり、五輪で団体総合に出られる4枠の代表入りは容易ではない。それでも「（上位との）差はなく、完璧な演技をした選手が東京五輪に行ける」ときっぱり。4月からの選考会に照準を合わせる。

きたその・たける 2002年10月21日生まれ、大阪府出身。3歳のころから体操を始める。18年にブエノスアイレスで開かれたユース五輪で、個人総合と種目別4種目を制し、計5個の金メダルを獲得。